

瀬戸内海から世界の海の環境を考える

平成19年2月18日(日) 13:00~15:00

今日は、世界で起こっている出来事を瀬戸内海から学習します。

特にクラゲについて学習してもらいます。日本海でエチゼンクラゲが大量発生したというニュースは聞いたことがあると思います。実は瀬戸内海でもクラゲが大量発生しています。

まずは、クラゲを知っていますか？という先生の質問に「してるよ〜」「海岸でみた」と大きな声で答えていました。

ミズクラゲの写真を見せて「これかな？」と聞くと「そうかも??」と答えていました。ミズクラゲは夏のお盆過ぎに大量発生するそうです。

冬になると死滅していたものが、最近の温暖化で越冬する個体が出てきているそうです。

クラゲだらけの海になると困ることは何でしょう？という質問をされました。答えは、クラゲがプランクトンをほとんど食べてしまうため、魚が食べられないので数が減ってしまう、ということです。

現在、今治沖には44種類以上の魚が生活していますが、海の中は弱肉強食という枠の中で生活しています。プランクトン~小魚~大きな魚~人間という仕組みの中に、クラゲが大量発生したため、プランクトン~クラゲという図式ができてしまい、小魚~大きな魚の数が減ってきています。

魚が減る理由は「人間による捕りすぎ」によるものではないか？と思われていましたが、クラゲの大量発生も関係がありそうなのです。

実は誰も調べていなかったもので、最近になって、実際に本格的な調査が始まったそうです。

このような理由もあり、クラゲは謎だらけなのです。大量発生する理由に、コンクリートの護岸工事で、クラゲの子ども(ポリプ)が生息しやすい環境を作ってしまったのではないか？という意見もあるそうですが、よく分かっていません。

既に大量発生してしまったクラゲをどうするか？という、福井県の高校生が考えた「くらげクッキー」があります。クラゲの粉末がクッキーに練り込まれています。また、いろいろな薬品が作れるのではないか？ということで、研究も始まっています。普通に食べただけではクラゲは美味しくないので、誰か美味しい料理方法を見つけて下さい。ということでした。

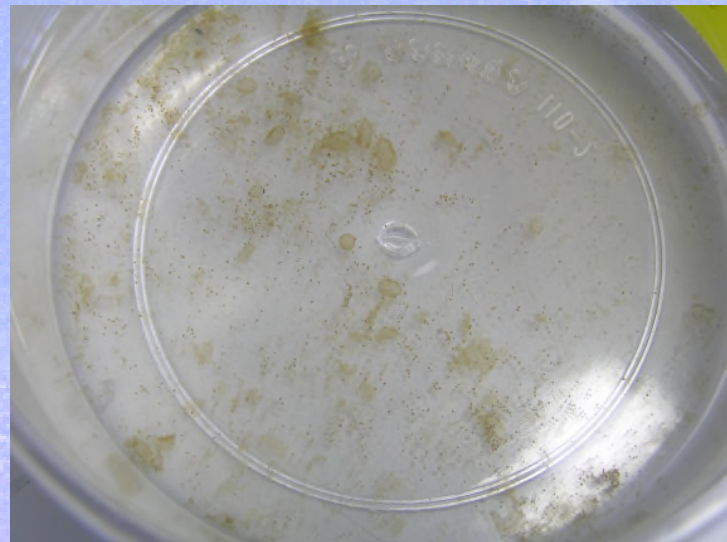


救命胴衣です。海に出るときの必須品です。



大きなアミです。先が詰まっていた魚などが逃げられなくなります。

実際に現場で使っている道具を見せて貰いました。そして先生が捕ってきてくれた伊予灘のクラゲたちを観察しました。



顕微鏡を使い、小さなクラゲたちを観察します。捕まえてきた水を取り、触手や体を観察しました。観察したクラゲの名前は「カブトクラゲ」と言います



目で見える大きさのクラゲ以外にも、水の中にはたくさんのプランクトンが見つかりました。

最後に、今日捕まえてきたクラゲにさわってみることにしました。クラゲは非常に脆く、輸送するだけで崩れて死んでしまうことが多いそうです。今回は先生が非常に気をつけて運んでいただいたので、全員がさわってみる事ができるぐらいのクラゲがいました。実際に触ってみると、「気持ち悪い」「ふにゃふにゃする」という声がたくさん聞こえました。

山や川や海、いろいろな自然のところに出かけてみましょう。定期的に出かけていると、前は見つからなかった生きものや、思いがけない出来事に出会うことがあります。その出来事はもしかしたら、何かのシグナルなのかもしれません。そのシグナルを感じたときに私たちは何ができるか？何をすればいいのか、考えてみて下さい。